

# 装衣

## “よそほひ”の学び —裁縫雛形を通して—

服装や用具などで身を飾る“よそほひ”は、太古の昔から生活していく上で欠くことのできないものであり、それらを調える仕事は長く女性の役割とされてきた。女性たちは、糸を紡ぎ、布を織り、裁断縫製を経て着物に仕立てた。これらの知識や技能は、近代以前は、おもに家や地域共同体のなかで伝えられてきたが、近代以降は、学校制度の普及により、学校で“よそほひ”の知識と技能を学ぶようになった。本企画展では、主として戦前の裁縫教育のなかで用いられた教材・教具である裁縫雛形を取り上げ、“よそほひ”の学びの一端を紹介する。



(1) 女物単衣長着



(2) 子ども水平服

2013年 11月9日(土) — 12月6日(金)



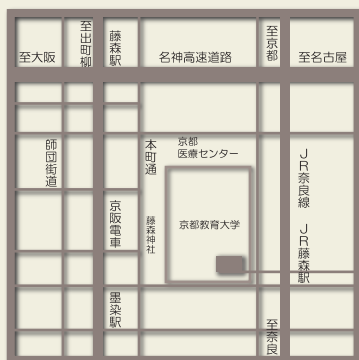
(3) 袴男袴



(4) でんち

(1)(2)(3)五十川てい氏 裁縫資料(裁縫雛形)  
— 旧亀岡高等女学校教材 京都府立亀岡高等学校寄託 —

(4)旧神戸市森高等女学校裁縫資料(裁縫雛形)  
— 神戸学院大学附属高等学校寄贈 —



- 開館日 月・水・金・日曜日
- 開館時間 13:30 — 17:00
- 入館料 無料
- 交通機関 JR奈良線 JR藤森駅下車 徒歩約3分  
京阪本線 墨染駅下車 徒歩約7分

京都教育大学 教育資料館  
まなびの森ミュージアム

京都市伏見区深草藤森町1番地  
京都教育大学 教育資料館  
TEL:075-644-8840/8175

